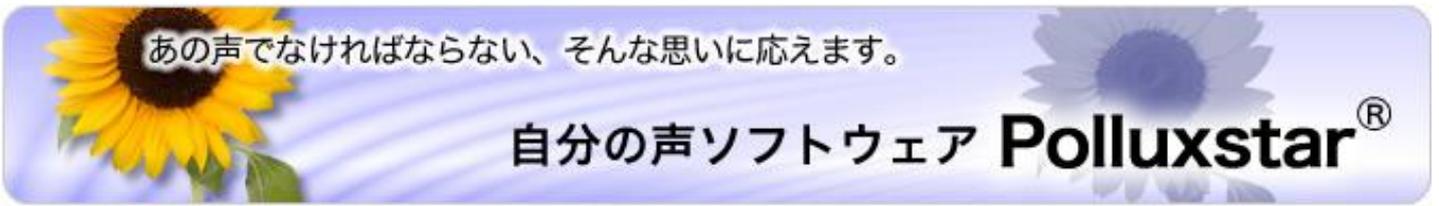


# POLLUXSTAR 通信 第一号

発行日：2010年10月15日

発行元：株式会社ウォンツ ソリューション事業部



## 株式会社ウォンツと OKI は事業提携しました

株式会社ウォンツは、製品のお問い合わせから、製造・販売・ユーザーサポートまでの一貫したサポートを実施、OKIは技術提供・技術開発に専念することで、これまで以上に幅広い提供をはかってまいります。これにとともに、今後の Polluxstar のお問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社ウォンツ ソリューション事業部

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄三丁目10番22号 東朋ビル6階

<http://www.wantsinc.jp/Solution8.html> Email: [polluxstar@wantsinc.jp](mailto:polluxstar@wantsinc.jp)

OKI およびウォンツは、これからも「あの声でなければならぬ、そんな思いにこたえます」の製品コンセプトのもとに協力し、音声による豊かな生活の実現をめざしてまいります。今後よろしくお願いたします。



株式会社ウォンツ Polluxstar ウェブサイト

## ウェルフェア2010に出展

ウォンツ

とき : 2010年5月21-23日

ところ : ポートメッセなごや

ウェルフェアは主に中部圏から約7万人の来場があり、そのなかで一般の方をはじめ、医療福祉関係者や学生など多くの方にPolluxstarを紹介することができました。

会場では、実際に使い方を体験していただいたり、リーフレットやビデオによるPRを行いました。Polluxstarをご理解していただくとともに、多くの感想や要望をいただくことができました。

出展をきっかけに中日新聞、中部経済新聞にも取りあげられました。



出展の様様

## NHK 番組への技術提供を実施

OKI

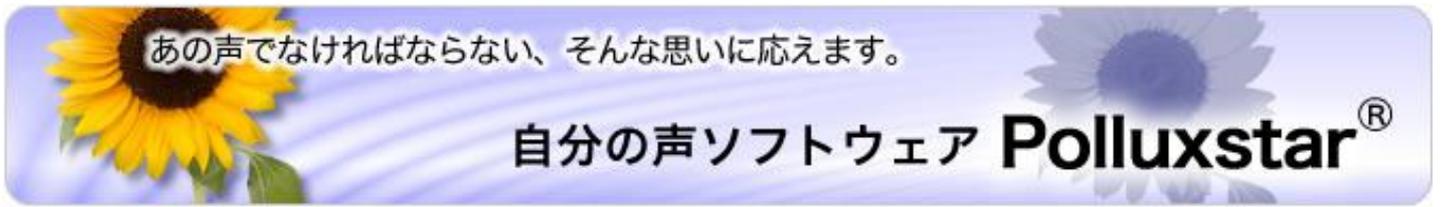
2010年7月15日放送 NHK BSハイビジョン「100年インタビュー」(特集:免疫学者 多田富雄)に技術協力しました。ここでは、生前の多田先生が出演したNHK市民大学、NHK人間大学から抜き出した音声データをもとに、Polluxstarの基礎技術であるOKIの「コーパスTTS技術」を用いて、任意のテキストを音声合成することが可能な音声データベースを構築しました。

また、放送番組で実際利用できるようなデータ作成等のサポートを行いました。本技術協力をを行ったことで、本技術の可能性と課題を不特定多数向けのコンテンツという立場から確認しました。

今後も本技術の新たな利用方法について検討を続けて参ります。



多田富雄氏 (I.N.S.L.A. Webサイトから)



## ヒューマンインタフェースシンポジウムで発表

ALS・筋萎縮性側索硬化症の3件の事例(OKI1例、ウォンツ2例)につきまして、東京都立神経病院リハビリ科の本間武蔵作業療法士とともに、神経変性疾患の方への適用の観点で、3者による研究成果を共同発表しました。

発表では、意思伝達ソフトとして HeartyLadder を使い、Polluxstar の本人性ある声の再現を意思伝達ソフトと連携してどのように用いるかの観点で、必要な機能や入力支援器具での使われ方、また事例において自分の声を必要と思われた動機とその実装にむけた課題などについて、実機を展示しながら説明をおこないました。

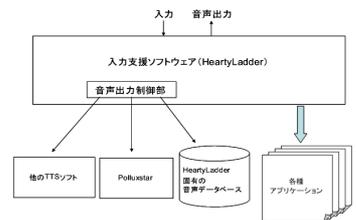


図7 HeartyLadderの機能概要

	事例における製品例	構築のしやすさ	人間らしさ、その人らしさ	合成音のなめらかさ 明瞭性
波形接続型	POLLUXSTAR	○	○	△
波形重量型	SMARTTALK	×	△	○

表8 TTSソフトウェアの長短

### 神経変性疾患者への自分の声ソフトウェア Polluxstar® 適用事例

本間武蔵<sup>1)</sup> 本間武蔵<sup>2)</sup> 岩木健<sup>3)</sup> 渡辺聡<sup>4)</sup> 兼安勉<sup>5)</sup> 川島紳<sup>6)</sup> 三木敏<sup>7)</sup>

A report of a Polluxstar® applicable example to a neural degenerative disease

Tsukasa Honma<sup>1)</sup>, Masahito Honma<sup>2)</sup>, Takashi Honma<sup>3)</sup>, Satoshi Watanabe<sup>4)</sup>, Tsutomu Kaneko<sup>5)</sup>, Shin Kawabata<sup>6)</sup> and Kei Miki<sup>7)</sup>

Abstract: POLLUXSTAR is Text-to-Speech software which imitates one's own voice, and we report three cases in which POLLUXSTAR was applied for neural degenerative disease. In POLLUXSTAR, the quality of the generated voice is affected by the speed and the frequency of the inputted voice and its duration. It is important how to collect generating voices and as well, how to use these voices for the TTS. So, we describe the importance for voice recording and the use of the device in each case. Last, we study how to remain one's own voice, in terms of adjustment for individual use.

Keywords: TTS, ALS, POLLUXSTAR, adjustment for individual use, voice recording

1. はじめに  
「声」は神経変性疾患の重要な特徴であり、そこで製造できる音質は、意思伝達ソフトの適用率や適用範囲に大きく影響する。したがって、自分の声ソフトウェア（以下「声ソフト」）の開発には、この声の再現技術が重要である。声ソフトの開発には、本人の声の録音と、その録音した声をソフトウェアで再現する技術が必要である。声ソフトの開発には、本人の声の録音と、その録音した声をソフトウェアで再現する技術が必要である。声ソフトの開発には、本人の声の録音と、その録音した声をソフトウェアで再現する技術が必要である。

2. 神経変性疾患者の声を取り取り

2.1 症例報告

2.2 症例報告

2.3 症例報告

2.4 症例報告

2.5 症例報告

2.6 症例報告

2.7 症例報告

2.8 症例報告

2.9 症例報告

2.10 症例報告

2.11 症例報告

2.12 症例報告

2.13 症例報告

2.14 症例報告

2.15 症例報告

2.16 症例報告

2.17 症例報告

2.18 症例報告

2.19 症例報告

2.20 症例報告

2.21 症例報告

2.22 症例報告

2.23 症例報告

2.24 症例報告

2.25 症例報告

2.26 症例報告

2.27 症例報告

2.28 症例報告

2.29 症例報告

2.30 症例報告

2.31 症例報告

2.32 症例報告

2.33 症例報告

2.34 症例報告

2.35 症例報告

2.36 症例報告

2.37 症例報告

2.38 症例報告

2.39 症例報告

2.40 症例報告

2.41 症例報告

2.42 症例報告

2.43 症例報告

2.44 症例報告

2.45 症例報告

2.46 症例報告

2.47 症例報告

2.48 症例報告

2.49 症例報告

2.50 症例報告

2.51 症例報告

2.52 症例報告

2.53 症例報告

2.54 症例報告

2.55 症例報告

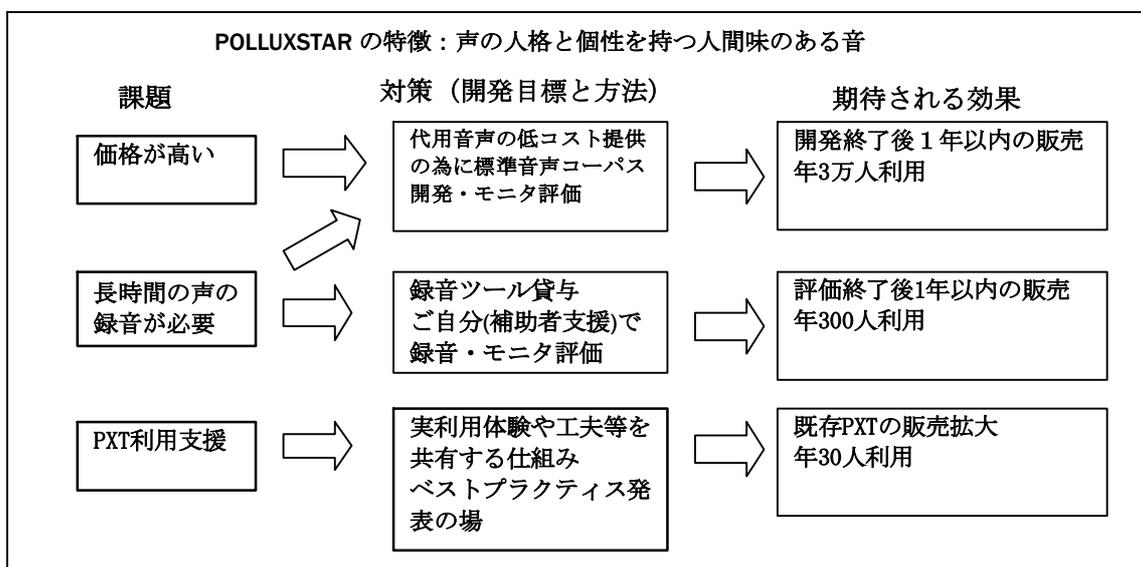
2.56 症例報告

2.57 症例報告

## 厚労省 障害者自立支援機器等開発促進事業

ウォンツ

Polluxstar の大きな課題として、高価、長時間収録、Polluxstar 利活用の仕組み不足、の3点が挙げられます。今回この課題の解決に向け、厚生労働省の補助を受けて、人間味のある代用音声の、低コスト提供方法を開発し、Polluxstar 利用支援の仕組みも構築する事業をおこなうことになりました。単年度単位の採択プロジェクトではありますが、以下の3カ年での計画を見据えて、これから取り組んでまいります。



厚労省プロジェクトの概要

本資料のお問い合わせ先

株式会社ウオンツ ソリューション事業部

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄三丁目10番22号 東朋ビル6階

<http://www.wantsinc.jp/Solution8.html> Email: [polluxstar@wantsinc.jp](mailto:polluxstar@wantsinc.jp)